

コース管理の現場で アルバトロスがもたらす 新たなステージを探る



ゴルフコース管理支援システム『アルバトロス』は、コース管理の「効率化」「見える化」を可能にしたことで多くのコースから関心を寄せられてきたが、このほど、その進化版として『アルバトロス オン クラウド』がデビューした。『アルバトロス』に続きクラウド版の導入にいち早く踏み切って成果を上げている九州屈指の名門、古賀ゴルフ・クラブの青木則明支配人（博士・農学）に、新システムへの期待を聞いた。

「効率化・見える化」で コース管理を革新

青木支配人は『アルバトロス』の開発段階から深く関わってきた。当時キーパーとして、コース管理に求められるさまざまな機能を要求。『アルバトロス』がそれを満たして完成度を高めてきたという点から言えば、アドバイザリースタッフのような存在だ。

「たとえば初期の頃は、農薬を月々どれだけやってきたかを振り返るといった点では確かに効率がよかったが、同じ農薬にしても殺虫剤と殺菌剤とに分けて管理をしたいといった要求を出すと、中村さん（アルバトロス開発者のインフォニア㈱代表取締役・中村太郎氏）はスピーディに対応してくれた」

時には、青木氏が指定しない有用な機能の提案もあり作業効率の向上が見られたという。

「一例を言えば、クラブにはコース委員会などさまざまな委員会があり、これらに対して定期的に報告・説明をしなければならぬわけですが、その際、半年前はどうかだった、1年前はどうかだったと過去の実績が瞬時

にわかるので作業時間が大幅に短縮できるようになった。これは大きいですね。これからの計画や提案という点でも、プレゼンの資料づくりには欠かせないし、あらゆる面で大きな力になっています」



「作業データを蓄積することで、仕事の効率化・見える化を実現できた」と語る青木支配人

一方、ゴルフ場としては地方自治体や公共団体など対クラブ外への報告という重要な義務があるが、その点でも時間短縮、効率アップは測り知れないという。

「やっぱり、1カ月前、半年前、さらにはもつと前にはどんな作業をしてそれがどんな結果になったかを瞬時に振り返るのがメリットですね。しかも、以前は当事者や一部のスタッフにしかわからなかったことを全員が共有できるようになったというのも大きい」

効率化、見える化の成果で、さらにはそれによって、管理スタッフ同

士やコース側とハウス側とのコミュニケーションもスムーズになったという。



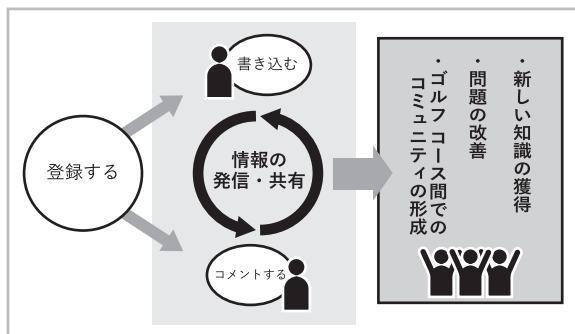
「コース管理スタッフ全員の業務内容を毎日入力し、情報共有に役立てている」というコース管理課 池見氏

このように『アルバトロス』は主にコース内の効率化・最適化を可能にした管理支援システムだが、今回新たに登場したのは、これらに加えてコース外とも連携して一層の効率化を実現できるというシステムだ。

「『アルバトロス』に新たにインターネットを駆使した4つの機能を追加したのが『アルバトロス オンラインクラブズ』で、これによりコース外においても情報の発信・共有が可能になり、コースの管理・運営という点では大幅な効率アップが期待できます」(中村氏)

新たに追加された機能の第一弾としてサービスが開始されたのが『コミュニティツール』のフォーラム。『コミュニティツール』には、

フォーラム、ウェブセミナー、キャリアの3つがあり、フォーラムはとりわけ注目される機能。知りたい・教えたい情報の共有や他のコースのスタッフとの交流を深めるためのコミュニケーションツールだ。



新サービス「フォーラム」の仕組み

「コース外の状況が得られるのは素晴らしいし、フォーラムは支配人間でも『こんなことで困っているんですけど、何かいい方法はありませんか?』と入れると『うちではこうした方法で解決した』との返事が期待できるし、特にキーパーなんか

『昨日から芝がこんな状況になっているんですが、似たような症状は見られませんか?』と聞いたりと、『うちも3日前から同じような症状が見られたので、こんな薬を使ったらすぐ治りました』といったことがよくある。新しい情報がすぐに手に入るようになる。これはありがたいですね」

開発者の中村氏もそれこそが狙い目だという。

「キーパーのなかには保守的な方もいて、人に相談しにくいということもある。そういう方にも使って欲しいし、そうなればキーパー間の交流がもつと盛んになり、ひいてはキーパーの地位の向上にも貢献できるのではと楽しみにしています」

**キーパーの地位向上にも
大きな期待が**

青木支配人もこの点では大きな期待を寄せている。古賀ゴルフ・クラブではこれまで日本オープンを3度開催している。2度目の2008年大会当時、青木氏はキーパーを務めていた。ナショナルオープンともなれば、優勝スコアを設定し数年前か

ら入念な準備を進める。キーパーにとつては腕の見せ所だ。大会ではほとんどの選手がドライバーを封印。優勝した片山晋呉プロのスコアは唯一人アンダーパーの1アンダー。青木氏にとつては、ほぼ狙い通りの結果だった。

戦いが終わると、米国の関係者から「今度はどこへ行くんですか？青木さんはこのために古賀に来たんでしょ。次はまた、日本オープン開催のコースへ移るんでしょ」と尋ねられたという。米国ではそれほどキーパーの地位が確立されていて、優れたキーパーは有名コースから引つ張りダコなのだという。

「そういう目で見ても良かったというのとはとても幸せなことで、確かに、米国あたりに比べると日本ではキーパーの地位がまだまだ低いという面はありますね。もちろんそれにはキーパー側にも原因があつて、自分たちが努力をすればコースのステータスが上がるんだという意識がやや不足している様に感じます。年間多額の費用をかけて管理をまかされているわけですから、それに応える努力をする必要がある。そうした意識を強く持つと同時に、フォーラムのような機能を上手く活かせば、コー

フォーラムを活用することで他コースとも情報交換が可能に

ス内はもちろん他コースのキーパーたちとも勉強し合っていくということで、地位も自ずと上がっていくでしょうね」

先にもあげたように、キーパーにはよく言えば一匹オオカミ、あるいは職人気質のような人も少なくない。「コースのことはオレが一番よく知っているんだから、よけいな口出しをするな」といったキーパーだ。「確かに、これだけのものを任せられているんだという自負はあるのかもしれないけれど、それでは、その人がいなくなったら何も残っていない

ということになってしまふ。今はキーパーも経営感覚が必要なんです。たとえば資材を購入するにしても、A社とB社とどちらが安いか、といったことにもっと敏感にならなければいけない。アルバトロスの管理実績を残し、クラウドで比較も容易に可能になることで、キーパーも経営感覚を身につければ、いやが上にも地位が上がるでしょうね」

社会的にもクラブ内でもキーパーの地位がより向上すれば、コース側とハウス側とのカベやミゾもなくなり、管理の質がさらに高くなることは容易に想像できる。

アルバトロスの新サービス

コミュニティツール「フォーラム」の
登録は無料
こちらのQRコードからお申し込みを



インフォニア(株)

〒810-0001 福岡市中央区天神4-1-18 サンビル4F
Tel 092-707-3215 HP <https://inform-near.com/>
Fax 092-707-3216 Mail inform@inform-near.com

『アルバトロス オン クラウド』は、『コミュニティツール』の第1弾フォーラムに続き、アルバトロス本体のクラウド化、コース間データの統計データの提供（『クロス集計』）を予定している。その後、『資材調達』、『機械運用』などのサービス群も提供されていくというが、今後のコース管理においては『クラウド化』がキーワードになっていくのは間違いないだろう。